



特集

宮城県利府町 ガーナ SWESCO 文化教育交流

Rifu - SWESCO
Cultural Exchange



AFAMのウェブサイトからもご覧いただけます。



03 歴史的ショーケース

A HISTORICAL SHOWCASE

04 宮城県利府町&ガーナSWESCO文化教育交流

RIFU - SWESCO CULTURAL EXCHANGE

06 ナイジェリアの紹介

INTRODUCING NIGERIA

08 ナイジェリアの食文化

NIGERIA FOOD CULTURE

10 アフリカの物語 - 「偽のライオン王」

AFRICAN STORY - THE FALSE LION KING

12 アフリカの織り成す素晴らしい文化、ことば、伝統

AFRICA'S AMAZING TAPESTRY: CULTURES, LANGUAGES, AND TRADITIONS

14 アフリカの祭り

FESTIVALS IN AFRICA

16 アフリカにおける野口博士の功績

NOGUCHI LEGACY IN AFRICA

18 日本のガーナチョコレートの甘いお話

THE SWEET STORY OF GHANA CHOCOLATE IN JAPAN

読者の皆さん、歴史の森へようこそ、森の中で私たちが出会うのは、アフリカ大陸を作った素晴らしい人物ばかりです。彼らに敬意を表しましょう。今回、スポットライトを当てるのは皆、世代を超えて私たちを力づけてきたシンボルばかり。さあ、歴史の森に分け入って、優れたリーダーたちの生き様を探ってみましょう。



Miriam Makeba
Miriam Makeba (1932年～2008年)

「ママ・アフリカ」として知られるミリアム・マケバは、力強い声で音楽を通じてアパルトヘイトと闘いました。彼女の歌には自由と抵抗のメッセージが込められています。彼女はアフリカ文化を世界に伝える大使であり、アフリカの回復の象徴となっています。



トマ・サンカラ
Thomas Sankara (1949年～1987年)

トマ・サンカラは、ブルキナファソの革命指導者であり、「アフリカのゲバラ」の異名を持つ人物です。大統領としての彼の活動は、汚職防止、教育、女性の権利、自立に重点が置かれ、暗殺されたにもかかわらず、その功績は永遠に語り継がれています。



コフィー・アナン
Kofi Annan (1938年～2018年)

ガーナの外交官であるコフィー・アナンは、1997年から2006年まで国連事務総長を務めました。彼は世界平和維持、紛争解決、開発において重要な役割を果たし、2001年にノーベル平和賞を受賞しました。

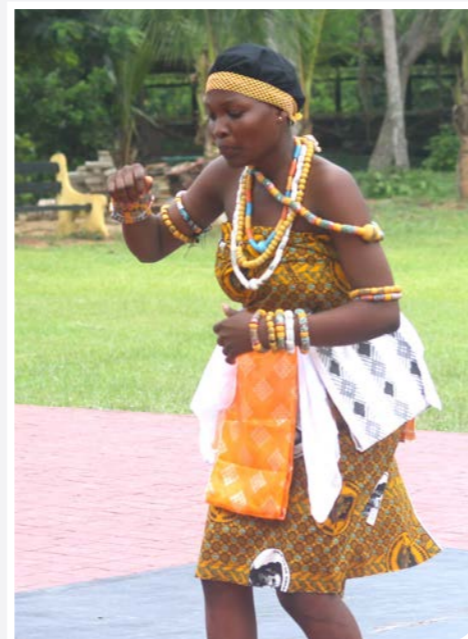


アキンウミ・アデシナ
Akinwumi Adesina (1960年生まれ)

ナイジェリアの経済学者であり、アフリカ開発銀行総裁でもあるアデシナは、アフリカ全土における農業改革、食糧安全保障、経済成長の促進に重要な役割を果たしてきました。飢餓撲滅への貢献が認められ、2017年に世界食糧賞を受賞しました。



宮城県利府町
&
ガーナ SWESCO
文化教育交流



宮城県利府町とガーナのスウェードル シニア ハイスクール (SWESCO) との文化教育交流プログラムが行われ、日本とガーナのパートナーシップが前進しました。本プログラムは、日本政府の「万博国際交流プログラム」の一環として、人と人とのつながりを通じた相互理解を促進し、二国間の関係を強化するものであり、相互成長と文化の尊重に基づく将来の交流のモデルを築きます。

目的:

このプログラムは、異文化間の対話の促進や教育機会の提供、そして長期的な協力を目的に行われました。

主な活動:

- ・ガーナへの代表団訪問
- ・生徒のオンライン交流
- ・関連機関への訪問
- ・産業や貿易への関与

成果と今後の展望

この文化・教育交流は成功を収めました。活動の記録は2025年大阪万博のガーナブースなどで紹介される予定です。今後は、両国の学生が互いに訪問し合う体系的な交流プログラムを通じて、教育・技術・社会の理解を深め、外交関係のさらなる発展を目指しています。この取り組みは長期的な協力の出発点であり、明るく強固な未来に向けた一歩です。



ガーナ各地の民族衣装紹介は生徒がモデル



利府町の中学生とのオンライン交流



「AKWAABA! (ようこそ!）」と歓迎されました



ナイジェリアの紹介

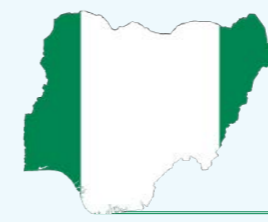
ナイジェリア - ラゴス

アフリカの巨人、ナイジェリア

多様性とチャンスのある国ナイジェリアへようこそ!ナイジェリアには250を超える民族が共存し、活気あふれる都市ではエネルギーがあふれ、情熱的な芸術、音楽、食が高く評価されています。アフリカで最も人口の多い国として知られ、近代的な都市と伝統的な村落、熱帯雨林とサバンナという対照的なものが混ざりあう国です。

ナイジェリアはどこに位置するのでしょうか?

ナイジェリアは西アフリカの大西洋ギニア湾沿いに位置します。首都であるアブジャは近代建築と政治的重要性で知られ、最大都市で最も人口の多いラゴスはナイジェリアの経済とエンターテインメントの中心地となっています。ナイジェリアはしばしば「アフリカの巨人」と呼ばれ、経済はアフリカ最大規模で、豊かな文化遺産、膨大な天然資源、世界に影響を与える映画・音楽産業などを有しています。



ナイジェリアの街を訪れてみよう

眠らない街!ラゴス



ラゴスは高層ビルが建ち並ぶ活気に満ちた街です。アフリカ最長の空中回廊がある自然保護公園Lekki Conservation Centreではスリル満点の樹上体験ができ、また、オショディ・マーケットでは、ファッションやおいしい屋台料理が楽しめます。

ナイジェリア料理を楽しもう。



ジョロフ・ライスを知っていますか?スパイシーでトマトたっぷりのこの料理は、ナイジェリアとガーナで、どちらのジョロフ・ライスが一番か競い合うほどおいしい料理です。そのほか、スヤ(スパイシーな焼き肉)、潰した山イモとエグジ(メロンの種が入ったスープ)もぜひ試してほしいですね。

ベニン市博物館



ナイジェリアができる前にベニン王国が栄えていました。ベニン青銅器は13世紀の壮大な彫刻で、その豊かな歴史を物語っています。ぜひベニン国立博物館を訪れこの遺産を間近で見てください。

ズマ・ロック



人の顔をした山!それがアブジャ近郊にある巨大な岩、ズマ・ロックです。伝説によると、かつて戦士たちがこの中に避難していたと言われ、その表面には自然が刻んだ顔が見えるという人もいます。

ナイジェリアの食文化

ジョロフ・ライスは、ナイジェリアをはじめ西アフリカ全土で最も愛されている料理のひとつです。濃厚なトマトの風味と鮮やかなオレンジ色で知られるこの料理はパーティーや家族団らんの定番鍋料理です。正確なレシピは地域によって異なりますが、ナイジェリア版はスモーキーな香りと大胆なスパイスで有名です。



ジョロフ・ライスを作ろう!

Let's Cook Jollof Rice!

材料(4人分)

【ソース用】

赤パプリカ:	1.5個
トマト:	1.5個
玉ねぎ:	1/2個
ハバネロ:	1個
水:	少々

※辛いのが苦手な方は少なめに

【ジョロフ・ライス用】

油:	大さじ2	塩:	小さじ1/2
玉ねぎ(スライス):	1/2個	こしょう:	お好みで
トマトペースト:	大さじ2.5	ブイヨン:	大さじ1/2
にんにく(みじん切り):	2片	米:	2合
生姜(すりおろし):	大さじ1/2	チキンストック:	小さじ5
ローリエ:	1枚	トマト(スライス):	1/2個
タイム:	大さじ1/2	玉ねぎ(スライス):	1/2個
カレーパウダー:	大さじ1/2	バター:	大さじ1

作り方

- 【Step 1】 まず、赤パプリカ、トマト、玉ねぎ、ハバネロをミキサーで攪拌し、トマトベースのソースを作ります。
- 【Step 2】 フライパンに油を中火で熱し、玉ねぎを加えて約3分炒め、柔らかくします。
- 【Step 3】 トマトペーストを加え、約5分炒めます。その後、にんにく、生姜、ローリエを加えてさらに2分炒めます。
- 【Step 4】 ミキサーで作ったソースを加え、水分が減ってソースが濃くなるまで10~15分煮込みます。
- 【Step 5】 タイム、カレーパウダー、ブイヨン、塩、こしょうで味付けし、さらに2~5分加熱します。
- 【Step 6】 洗って水気を切った米を加え、ソースによく絡めます。その後、チキンストックを加えてさっと混ぜ、蓋をして強火で一気に沸騰させます。
- 【Step 7】 沸騰したら(約3~5分後)、すぐに弱火にし、蓋をしたまま約30分蒸し煮にします。
- 【Step 8】 バター、スライスしたトマトと玉ねぎを加えて軽く混ぜ、すぐに火を止めます。蓋をしたまま、米の残り熱で野菜に少し火を通します。
- 【Step 9】 甘く揚げたプランテン、ローストチキン、またはサラダと一緒に召し上がりください。

注意点

ご飯が炊き上がった後、ローリエは取り除いてください。ただし、見つからない場合は無理に探さず、混ぜすぎを避けましょう。混ぜすぎると米が崩れる原因になります。見つけた時に取り除けば大丈夫です。

KidsStory

偽のライオン王



ヘラは力強いライオン王でした。シエロはヘラのようになりたいと思いましたが、かわいそうなことに、それはうまくいきませんでした。ですがあることがシエロの人生を変えることになったのです。

むかしむかし、アフリカの広い広いサバンナに、ヘラとシエロという二匹のライオン王がいました。ヘラはその重々しい姿、雷のようなおたけび、そして優れたリーダーであることで広く知られていました。一方、シエロはそれほどのライオンではありませんでした。シエロのたてがみは弱々しく、その声は細くてかん高く、おかしな状況によく巻き込まれていました。

ヘラはこれ以上ないほどの威厳と畏敬をもって王国を治めていました。サバンナの動物たちはヘラを尊敬し、うやうやしくヘラの教えを求めていました。いっぽうシエロが熱中していたことといえば、ヘラと同じくらい強いふりをするのでした。シエロは毎日うろうろしながら、ヘラのおたけびをまねては自分がどれほど重要かを見てもらおうとしていました。動物たちはシエロのおかしなやりかたを面白いと思い、だいたいの場合はそれを許してやっていました。

あるよく晴れた日、大事な知らせがサバンナ中に広まりました。川の近くでハイエナのむれがさわいでいるというのです。ヘラはすぐに忠実なけらいたちを集め、ハイエナたちに立ち向かうため、かけ足で行進を始めました。シエロもまたこの一行に加わることにしましたが、それはただ、自分がどれほど立派かを知ってほしいからでした。

川に着くと、ヘラは耳をつんざくようなおたけびをあげました。それは地面をゆらし、ハイエナたちの心までもふるわせました。ハイエナたちはこの立派な王のまえでおびえてしまいました。これに負けじとシエロは胸をはって、細く高い声をあげました。ですがそれは近くにいた鳥たちをおどろかせただけでした。

ハイエナたちは気持ちが元にもどっただけでなく、思わず笑いだしました。ハイエナたちのリーダーはハンクといいましたが、まじめな顔をしつづけるのに苦労しながら、ヘラとシエロに近づきました。「立派なヘラよ、きょうは道化師といっしょかね？」ハンクはばかにしたようにシエロを指差していいました。「今日のあたらしい芸は一体なんだい？」

ほかの動物たちが笑いをこらえる中、シエロはおだやかな態度のまま、ただほほえみしました。ですがその時シエロは、自分が王にふさわしいライオンだということを見せようと心に決めていたのです。シエロはもういちど胸をはって、たかだかと言いました。「わたし、ライオンのシエロは、ヘラ王と同じくらい強いのだ！」

ハイエナたちはまた大笑いして、涙をぬぐいながら地面をころげ回りました。シエロは恥ずかしさで赤くなりましたが、やめようとはしませんでした。シエロは続けました。「ほんとうは私はヘラよりずっと強いんだ。見ろ！」いたずらっぽく輝きを目にうかべながら、シエロは近くのアリづかに向かって突進しました。でもすぐにつまずいて、顔から地面にころんでしまいました。ハイエナたちはもうがまんできず、大笑いをしました。いつもは静かなヘラでさえ、クスクスと笑いました。

日が沈み始めました。ハイエナたちはシエロのおかしな王様ごっこを大いに楽しんでから、去っていきました。ヘラは心から笑いながらシエロの方を向いて言いました。「友よ、あなたには私のような力や威厳はないかもしれませんが。ですがあなたは、あなただけのやり方で、王国に喜びと笑いをもたらすことができるのです。」

シエロは歯をみせて笑いました。「偽の」ライオン王も大事だということに気がついたのです。その日からシエロは王国の道化師となり、サバンナでの苦しい毎日のなかで、動物たちに笑いと陽気さをもたらしつづけました。

こうしてライオン王であるヘラとシエロは、いっぽうは力と支配によって、もういっぽうはユーモアとおどけによって、いっしょに国を治めました。王国を治めるには力と陽気さの両方が重要であることが、ここからわかるでしょう。



“**真の強さとは、力と支配だけによるものではない。真の強さとは、自分の持ち味を受け入れることから生まれるのだ。**”

アフリカの織り成す 素晴らしい文化、 ことば、伝統



アフリカの文化的な習慣も同じように多様で興味深いものです。

音楽とダンスは日常生活や特別な儀式においてとても重要な役割を果たしています。たとえばケニアとタンザニアのマサイ族は、「アドゥム」と呼ばれるジャンプダンスで有名ですが、このダンスは重要なイベントの際に披露されます。また西アフリカでは、語り部であり音楽家であるグリオと呼ばれる人々が世代を超えて受け継ぐことで、彼らの歴史や音楽を生き続けさせています。

アフリカの芸術や工芸品も、美しく多様性に富んでいます。

南アフリカのンデベレ族は精巧なビーズ細工で知られ、ガーナのケンテ織り職人はカラフルな布を作り、タンザニアのマコンデ族は精密な彫刻を生み出します。これらの工芸品は見た目が美しいだけでなく、特別な意味を持ち、儀式や祭礼で使われることがよくあります。

アフリカの祭りは、さまざまな習慣や信仰に触れる素晴らしい機会です。

ナイジェリアのオモ祭り、エチオピアのティムカット祭り、ケニアのトゥルカナ湖祭り、南アフリカのダーバン・ジュライなどのイベントで人々は集まり、音楽やダンス、食べ物、伝統的な衣装でお祝いをします。これらの祭りは、アフリカの人々の強い共同体意識と文化的な尊厳を示します。

アフリカには多様な宗教的な習慣もあります。

土着の信仰、キリスト教、イスラム教、その他の宗教がアフリカ大陸では信仰されています。たとえばマリのドゴン族は、日常生活の大部分を占める複雑な宗教的儀式を行っています。一方スワヒリ海岸では、美しい古いモスクや豊かな宗教的習慣とともに何世紀にもわたってイスラムの伝統が受け継がれています。

アフリカの多様性は食文化にも見ることができます。

地元の食材や歴史から影響を受けた、地域ごとの独自の味や調理法があります。北アフリカのスパイシーなシチュー、西アフリカの豊富な穀物や野菜、東アフリカの風味豊かな料理、南部アフリカのバーベキュー(ブラアイ)など、アフリカの料理はおいしくて、実に多彩です。

誇るべき多様性を持つアフリカ大陸のさまざまな文化やことば、伝統は、豊かでカラフルなタペストリーを織り成しています。アフリカの各地域の習慣や伝統を知ること、この素晴らしい大陸の不思議な複雑さと活気を改めて理解することができるでしょう。

アフリカは、さまざまな文化、ことば、伝統が共存する驚くべき多様性に満ちた大陸です。ここでは、この多様性の美しさを称え、アフリカ各地のユニークな習慣や伝統について学んでいきます。

アフリカで最も素敵な特徴のひとつは、そのたくさんの種類のことばです。

大陸全体で2,000種以上のことばが話されています！東アフリカのスワヒリ語、西アフリカのヨルバ語、南部のズルー語、北部のアラビア語など、それぞれのことばに特別な歴史があります。これらのことばは単に話す手段だけではなく、それぞれの民族の独自性を形作る重要な要素となっています。



トゥルカナ湖祭りの様子

アフリカの祭り

ケニアのトゥルカナ湖の祭り

ようこそ、アフリカの祭りの世界へ！祭りはアフリカ大陸のいたるところにあり、そこで人々はたがいにつながり、文化、歴史そしてアイデンティティを賛美しあいます。祭りは活気に満ちたイベントであり、古くからの慣習を守りつつ現代の影響を取り入れることによって、世代間の架け橋となるのです。物語を語る技術やさまざまな芸術、コミュニティの結束を作り出すプラットフォームである祭りは、アフリカでの生活に欠かせないものとなっています。

そのような素晴らしいイベントの一つに、ケニアのトゥルカナ湖の祭りがあります。この祭りは広大なトゥルカナ湖周辺に住むコミュニティの伝統、音楽、ダンスを色彩豊かに示してくれるものです。毎年、人里はなれたロイヤンガラニの町で開催されるこの祭りには、多民族国家ケニアの各民族が集まり、それぞれが独自の慣習と文化遺産を披露するのです。

生きた伝統：ダンスと音楽

この祭りの中心にあるのは音楽とダンスです。それぞれのコミュニティは、リズミカルな足さばき、色鮮やかな衣装、力強い太鼓を披露しながら伝統のダンスを踊ります。ケニアで最も小さな民族グループであるエルモロは湖の近くで古くからの儀式を行い、他方でサンプル族の戦士たちは有名な戦士のダンスを踊り、躍動的なジャンプや歌を披露します。

生きた博物館：衣装、工芸品、料理

この祭りはパフォーマンス以外でも五感を刺激する祝宴となります。屋台にはこの地域に根ざした文化を反映した手作りのジュエリー、精巧なビーズ細工、伝統的な衣服が並べられます。訪れる人は、この湖によって生活を営んでいるエルモロ族が昔ながらの方法で調理した、ローストヤギ（ニヤマ・チョマ）や魚料理といった本格的な地元料理も味わうことができます。

単なる祝典以上のもの：平和の象徴

トゥルカナ湖周辺のコミュニティは、しばしば水や放牧地をめぐる争いがもたらす民族間の緊張を長く経験してきました。この祭りは平和と団結のプラットフォームとして機能し、種々のグループ間の対話と相互理解を促進します。めまぐるしく変化する世界において、協同とともに伝統を守ることの重要性を強調するのです。

諸文化の集い

トゥルカナ湖の祭りは一年にいちど開催される独特な祭典です。ケニア北部のトゥルカナ湖畔にある小さな町ロイヤンガラニに、トゥルカナ、サンプル、エルモロ、レンディル、ガブラ、ボラナなど14を超える民族コミュニティが集まります。それぞれグループは豊かな文化遺産を有しており、この祭りは人々が自分たちの伝統を世界と共有する貴重な機会となります。

未来のために遺産を守ること

トゥルカナ湖の祭りは単なるイベントではありません。ケニアの多様な文化がもつ生命力の証なのです。この祭りを通じて若い世代は自分たちのルーツを学び、古くからの伝統が栄え続けるように尽力することになるのです。音楽、ダンス、鮮やかな衣装などなど、どれがあなたを魅了するのでしょうか。いずれにしても、トゥルカナ湖の祭りを訪れることはアフリカが持つ文化的多様性のただなかを訪れることとなり、その旅は忘れがたいものとなるでしょう。ぜひその刺激的なリズム、豊かな教えをもたらす物語を感じてください。そしてこの団結がもたらす未来への希望を目にしてください。

アフリカにおける野口博士の功績



野口英世博士は、黄熱病などの感染症に関する研究で有名な日本を代表する細菌学者です。アフリカ、なかでもガーナでの功績は、今日まで受け継がれています。科学の進歩と国際協力の促進に尽力した博士は、グローバルヘルスの歴史において、とりわけアフリカで重要な役割を果たしました。

野口英世博士の半生と経歴

1876年、日本の福島県猪苗代町で生まれた野口英世は、幼い頃に重度の火傷を負うもその後のさまざまな困難を乗り越えて、医学研究の第一人者となりました。

日本で学んだ後アメリカへ渡り、ロックフェラー医学研究所に入ります。梅毒や狂犬病などのさまざまな感染症に関する研究が国際的に評価されました。熱帯病、特に黄熱病研究への熱い思いを抱いて、やがてアフリカへと向かうことになります。



野口英世の生家・野口英世記念館(福島県・猪苗代町)

野口博士のアフリカでの活動

1927年、野口博士は黄熱病の調査を兼ねて西アフリカへ渡ります。黄熱病は当時、公衆衛生の大きな問題の一つでした。イギリスの植民地でゴールドコーストと呼ばれていたガーナが彼の研究の拠点となりました。

博士の研究が地球規模の問題であること、先住民や入植者たちを脅かす病に取り組む重要性、これらを考慮してロックフェラー財団は渡航や研究に係る費用を支援しました。博士はガーナの首都アクラに到着するとすぐに研究を始めます。黄熱病はのちにウィルスが病原だと明らかになるのですが、その頃の博士は細菌によるものだと考えていたのです。

博士は広範な調査を実施し、蚊と人間を対象とした実験で自らの理論を証明しようとしていました。しかしながら、研究半ばで皮肉にも根絶しようとしていた黄熱病に博士自身が罹り、1928年5月に息を引き取りました。

ガーナに残した遺産

野口博士がガーナで亡くなったことにより、同国の歴史にその名が強く刻まれました。医学研究への貢献と黄熱病撲滅への献身を称え、1979年に日本政府の支援を受けてガーナ大学に野口記念医学研究所(NMIMR)が設立されました。博士の名にちなんだこの研究所はアフリカの代表的な研究機関の一つで、マラリア、HIV/AIDS、さらに最近ではCOVID-19などの感染症に焦点を当てた研究が行われています。

NMIMRは、ガーナおよびアフリカ全土の公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。国際機関との連携の拠点となり、研究者の育成、最先端の科学研究、そして差し迫った健康課題に取り組んでいます。博士が残したものは、黄熱病研究への貢献だけでなく、彼の名を冠した研究所がたゆまず歩み続けることへの影響力です。グローバルヘルスの向上に対する博士の献身は、NMIMRを通じて今も生き続けています。

国際的なつながりと文化的影響

野口博士のアフリカでの活動は、日本とアフリカ諸国、なかでもガーナとの絆を強く結びつけるものとなりました。日本政府は博士の業績に深い敬意を表し、野口記念研究所への支援を続けています。博士の一生は、科学の探究と国際協力の精神へ身を捧げたことに象徴されます。日本とガーナの生活の中にも博士の功績は根付いています。日本では千円札の肖像画に選ばれ、また研究に対する志を持った国際人の一人として伝えられています。ガーナでは、公衆衛生の領域への貢献とその非業の死によって、人々の記憶に永遠に刻まれています。毎年、アクラにある研究所では博士を讃える式典が開かれており、その研究はアフリカの科学者や医療従事者に希望を与え続けています。

アフリカ、とりわけガーナに残した野口英世博士の功績は、科学への探究、献身、自己犠牲にほかなりません。グローバルヘルスの発展において、博士の名は、野口記念医学研究所を通して今も生き続けているのです。



野口記念医学研究所 - ガーナ



日本のガーナチョコレートの甘いお話

日本に「ロッテ」という有名なお菓子会社があり、そこはおいしいお菓子をつくることで知られていました。ある日、ロッテの商品企画を行う人々はワクワクするようなアイデアを思いつきました。彼らはみんなに愛される新しいタイプのチョコレートを作りたいと思い、それを「ガーナチョコレート」と名付けることにしました。でも、なぜ「ガーナ」なのか聞いたことはありますか？そのストーリーをお話ししましょう。

遠く離れた西アフリカに、ガーナと呼ばれる美しい国があります。ガーナは豊かなカカオ農園があることで有名で、そこでは世界中でも上質のカカオ豆が栽培されています。これらのカカオ豆は濃厚で美味しいチョコレートをつくる魔法の原料となっています。ロッテはガーナのカカオ豆を使用することでチョコレートが最高品質になることを確信し、そしてそのことをみんなに知ってもらいたかったのです。

1960年代に、日本は活気ある近代化した国へと開花し、人々は国を超えて世界へ興味を持ち始めていました。ロッテはこれを新しいチョコレートを披露する絶好の機会だと思いました。彼らはカカオ豆の異国情緒あふれる原産地を強調し、また製品への少しの冒険心を加えるため「ガーナチョコレート」という名前を選びました。ガーナという名前は遠い異国と上質な品質をイメージさせ、好奇心と冒険心あふれる消費者へよりいっそうチョコレートをアピールしました。

ロッテの賢い人たちの考えは正解でした。人々はガーナチョコレートが大好きになりました！ガーナチョコレートという名前そのものが遠い異国と洗練されたカカオ豆を連想させました。それはただのチョコレートではなく、最高の原料を提供することで知られる国から来た特別なものでした。みんながそのチョコレートを食べたいと思うようになり、そしてすぐにガーナチョコレートはロッテで人気のお菓子のひとつとなりました。



チョコレートに「ガーナ」という名前をつけることによって、ロッテは品質と冒険の物語を伝えるだけでなく、お菓子の世界で目立つブランドを設立しました。ガーナチョコレートは子どもから大人まで同じように愛されるようになり、その名前は最高の品質とほんの少しの神秘性を感じさせるものとなりました。

こうしてガーナチョコレートの物語は続き、時に名前が素敵な物語を伝え、シンプルなチョコレートバーも遠い国へのワクワクする旅のような気持ちにさせてくれることを、私たちにときどき思い出させてくれるのです。今日、ガーナチョコレートは文化をつなぐお菓子として、チョコレート愛好家を魅了し続けています。



AFAM賛助会員募集中

AFAMは、宮城県や東北に住むアフリカ人と日本のコミュニティとの交流の活動を行っています。国ごとではなくアフリカすべての国を対象とした、ほかの地域にはない組織です。アフリカ開発に関する公開セミナーや、パフォーマンスや地域社会での奉仕活動を通じてアフリカの価値観や文化を促進するイベントや公開セミナーなどを通じて、東北の国際化を支援しています。東北の大学に在籍する学生や社会人のアフリカ出身者、約100人とネットワークを結んでいます。

AFAMは市民活動に参加し、自治体や団体と協力して、アフリカの価値観や文化に対する日本社会の理解を深め、東北の活動を支援しています。また、東北地方の大学に留学するアフリカ人留学生を歓迎し、彼らを支援しています。JICAなどの機関や地元企業と協力して、アフリカ開発に関する公開セミナーや留学生のためのスタディーツアーを開催しています。地方自治体や市役所・区役所が開催するイベントに積極的に参加しています。老人ホームを訪問し、アフリカの価値観を伝えるために歌やダンスを通じて高齢者との交流を行っています。是非私たちの活動をご支援ください。

賛助会ご加入希望者は、AFAMまでメール等でご連絡下さい。『support.afam@afam-org.com』

◎ 賛助会員の区分と年会費

- 個人会員 1口 3,000円
- 団体会員（企業などの法人、任意団体など） 1口 10,000円
※ 1口以上、何口でも結構です。

◎ 賛助会員の特典

- 個人会員 アフリカ現地で購入したビーズブレスレットなど。
- 団体会員 アフリカ出身のAFAMメンバーが講師として、ご要望のテーマで出前授業。

◎ 賛助会員の会費指定口座

七十七銀行 一番町支店(205)普通預金口座:5009810

【宮城アフリカ協会 会長 ASIEDU ISAAC YAW】

SPONSORS

 公益財団法人宮城県国際化協会
未来の東北博覧会記念国際交流基金助成金事業

 みやぎ生協

 株式会社カネダイ

 ボーダレス株式会社

 **AFAM**
African Association of Miyagi

本雑誌はダウンロード可

PDF版はこちら >>

afam-org.com/afrimag/

